

そっけん

息軒だより

三計の教え



令和5年度12・1月号(第41号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO 法人 安井息軒顕彰会
理事長 徳村光郎 館長 川口眞弘
〒889-1605

宮崎市清武町加納甲3378-1

TEL 0985-84-0234

FAX 0985-84-2634

e-mail sokken.yasui@pic.bbq.jp

<https://yasuisokken.jp>

一日の計は朝あしたにあり
一年の計は春はるにあり
一生の計は少壮しょうそうの時にあり



QRコードを読み取ると、記念館のホームページがご覧になれます

息軒先生について学ぶ子どもたち ✨🌈

当館のキャッチフレーズは「**息軒にふれ、親しみ、学び、生き方を生かす記念館**」

猛暑・酷暑の夏もようやく終わりを告げ、10月で学校の運動会も終了。迎えた11月、市内のたくさんの学校の子どもたちが記念館を訪れ、解説や展示に目をキラキラと輝かせていました。



生目台西小3年



学園木花台小4年



江南小4年



森永小4年



西池小4年



清武小3年



佐土原下村ふれあい会

高齢者の団体も続々と…

息軒の偉業のお話しをすると、異口同音に、「宮崎からそんなにすごい人が…」と驚かれます。「百里を行くものは九十を半ばとす」(半九の精神)生涯を通じた学びの時代です。



宮崎保健福祉専門学校デイサービス

宮崎国際大学や宮崎学園短期大学の学生も学んでいます



☀️ 夏休み作品コンクール表彰式を開催 ☀️

今年も県内各地から書道・絵画・似顔絵・自由研究作品約 1000 点が寄せられ、10月15日（日）表彰式が開催されました。ご応募いただいた方々にお礼を申し上げます。入賞者のみなさま、おめでとうございます。



第3回記念館講座「伊豆・伊東を行く」

11月11日は、安井息軒顕彰会会員諸岩則俊氏を講師に迎えての講座でした。まず安井息軒の旅行記『続読書余適』に記された旅程を、同氏が現地へ赴いて撮影した美しい富士山の写真とともに振り返り、息軒が眺めたかもしれない風景を楽しみました。また同氏は息軒⇨陸奥宗光⇨小村寿太郎というラインを描き、息軒が海防論で警告したにも関わらず、不平等条約によって奪われてしまった日本の主権を、息軒の弟子である陸奥宗光、そして孫弟子で、飢肥出身の小村寿太郎が取り戻したというストーリーを提示しました。



各種研修会等へも積極的に参加、息軒研究を深め、輪を広げています

当館学芸員が二松学舎大学主催の「転換期における東アジアと漢学」シンポジウムで、「安井息軒による明治初期の日中学術交流」と題した報告を行いました。また大阪大学で開催された日本中国学会大会にも参加し、福井大学黒田秀教准教授に息軒著『鬼神論』に関する外部研究を依頼し、引き受けていただくことができました。館長は木城町の「石井十次記念館」で開催された宮崎県博物館協議会の研修会に参加し、研鑽に励みました。



二松学舎で発表する当館学芸員

学会会場 大阪大学

協議会会場 石井十次記念館

ニーズに応じて出前もしています



当館ではみなさまのニーズに応じて、積極的に出前講座も実施しています。

右の写真は学芸員が宮崎市中心公民館の講座で講話をしている光景です。

求めに応じて当館職員が小中学校、高等学校、大学、専門学校、公民館、高齢者施設、PTA や企業等の研修会…どこにでも伺います。



連絡先は一面の枠内をご参照ください。みなさまのお問い合わせをお待ちしております。

安井息軒顕彰「小学生俳句コンクール」(小学4～6年)

成人対象「短歌・俳句・川柳コンクール」を開催します ✨🌈

- 1 テーマ：梅、安井息軒、佐代、旧宅、野鳥…
- 2 募集期間：令和6年1月23日(火)～2月18日(日)、表彰式3月17日(日)10～12時 記念館
- 3 応募点数：小学生は一人1点、成人の部は一人2点まで
- 4 入選：各部門 息軒賞(特選) 滄洲賞(金賞) 佐代賞(銀賞) 清溪賞(銅賞)・氏名
- 5 選者：短歌(伊藤一彦氏) 俳句(田上比呂美氏) 川柳(間瀬田紋章氏)
- 6 応募方法：記念館設置の応募用紙利用、FAX、またはHPから応募用紙をダウンロードして利用住所・氏名・連絡先・作品を明記してください。詳細は安井息軒記念館HPに掲載します。

❖冬の企画展「息軒の娘 ～安井息軒の教育論～」準備着々と…❖

ポスターには、宮崎市在住のイラストレーター池田和宏氏の「Astro Girl」を使わせていただきました。会場では、安井紀子氏寄託の須磨子宛て安井息軒書簡「妻の道五箇条」(安政3年)や湯地貞康氏蔵「湯地家宛須磨子書簡」(明治9年)、諸岩則俊氏蔵「如蘭叢話・後編」(大正2年)の原物のほか、安井息軒が老中に上奏した「時勢一隅」(文久2年、東京都立大学水野家文書)や当館蔵マイクロフィルム「時務一隅」(近代写、慶応大学しんどうス道文庫)の複製等を展示する予定です。

～ 千葉県香取市せいみや清宮家に伝わる安井息軒書簡 ～

千葉県は平成3年から18年計画で『千葉県史』全51巻の編纂を進め、昨年令和4年に全巻刊行しました。その編纂に参加していた佐藤裕貴子氏が、千葉県香取市の清宮家に伝わる清宮秀堅(1809-1879)宛安井息軒書簡の写真や翻刻、さらに書き下し文と口語訳を送っていただきました。13通の書簡は、いずれもこれまで宮崎では知られていなかった史料で、息軒の新たな一面を伝えるものでした。その内容をご紹介します。

清宮秀堅は下総しちゆうさ(今の千葉県北部と茨城県南西部)の豪商で、優れた文人でした。彼は文久の頃に安井息軒・塩谷宕陰・藤森天山の漢詩を編集して『三家文鈔』として出版する計画をたて、息軒と校正作業を進めていました。ところが原稿が完成したところで息軒が作品を取り下げると言い出し、出版は取りやめになります。理由は、藤森天山の作品に対して幕府から出版許可が下りなかったからでした。藤森天山は「文会」の立ち上げメンバーでしたが、「安政の大獄」で江戸追放の処分を受けていました。清宮秀堅宛書簡には、息軒が手を尽くして藤森天山の行方を探していること、ついに「北総」にいることを突き止めたことが記されています。息軒は言います、「自分は『藤森天山を世に出すために自分の虚名が役立つならば』と思い、作品提供を承諾したのである。幕府は私と宕陰の作品だけなら出版を許すと言っているそうだが、それでは話が違って来る。藤森の作品が出版できない以上、私も作品を取り下げる。もしすでに版木を彫り始めていたら、その費用は私が弁償するから言ってほしい」と。この漢詩集は息軒にとっても初めての出版物になるはずでした。佐藤裕貴子氏は「書簡から、安井息軒は誠実な人物であると感じた」とおっしゃっています。

顕彰会による記念館支援事業

本年度も各種講座 続々と開講、そして…

その1 安井息軒の『論語集説』を読む

『管子纂詁』『左伝輯釈』と並ぶ息軒三大著作の一つとして名高い『論語集説』。この著作を、宮崎大学の山元宣宏先生の解説とともに読んでいく「みやざき三計塾 ～息軒の『論語集説』を読む」が、今年も開講され、全6回を終えました。全編漢文で書かれた息軒の注釈を、山元先生は分かりやすい言葉で、噛んで含めるように詳しく丁寧に説明していただきました。山元先生は、ただ『論語』の本文を息軒流に訳して済ませるのではなく、息軒の注釈を丹念にたどって、息軒が中国や日本の儒者の説を比較・検証し、解釈を確定していった思考のプロセスにまでさかのぼって、解説していただきました。おかげさまで息軒の学問のあり方に触れることができました。

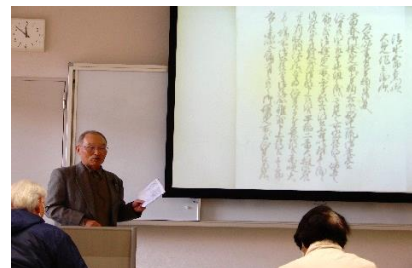


山元准教授による講座の光景

同講座は平成 30 年にスタートしました。先生には長年にわたり貴重なご指導をいただきました。来年度以降は記念館講座等、異なる場面でぜひともご指導のほどお願い申し上げます。

その2 古文書講座

元高校の先生で『清武町史』の執筆者の一人である松浦祥雄先生による「古文書講座」も完了しました。松浦先生には令和元年度から、5年間にわたって講師を務めていただきました。最初の3年は執筆いただいた『清武町史』の文責部分である中世の清武について、続いてトピックス的な内容を取り上げて、そして本年度は古文書講座として、「宮崎村方之内騒動覚書」を…常にわたしたち受講者にさまざまな刺激を与えてくださいました。受講者からの質問に対しても、いつもにこやかに分かりやすく対応してくださいました。また他の機会にぜひとも講師としてお願いしたいものです。誠にありがとうございました。



松浦先生による古文書講座

また他の機会にぜひとも講師としてお願いしたいものです。

ファミリー息軒塾は、家族で体験を共有できる楽しい講座です ✨

10月1日の第3回ファミリー息軒塾は「作って食べよう仲平豆、そして息軒かるたで遊ぼう」を実施しました。息軒の字は仲平。ですからふだん家族や仲間は息軒のことを「仲平」と呼んでいました。そんな仲平が飢餓藩の大坂の蔵屋敷の長屋の一室を借りて苦学をしていた時代、仲平は食事代を節約するために大豆の豆を大量に買い込んで、それに塩と醤油だけで味付けをして、ごはんのおかずとしてそればかり食べていました。仲平がおかずとしてそればかり食べていたこの豆料理を人々は「仲平豆」と呼ぶようになったのです。この「仲平豆」を作り、豆が煮える間にみんなで安井息軒旧宅の掃除をし、できあがった豆とおにぎりを旧宅でほおばりました。終了後はみんなで「息軒かるた」を楽しみました。

ファミリー息軒塾、12月3日は宮崎国際大学の守川教授のご指導による「絵手紙と落款づくり」、1月6日は「息軒かるた大会に参加しよう」と続きます。1回だけ、お子様だけの参加も可能です。さあ、あなたも…



旧宅清掃を終えて



仲平豆はどんな味かな



旧宅で息軒かるたを楽しむ

本年度も安井息軒顕彰 小学生かるた大会を開催します！

- 予選会：令和6年1月6日（土） 13：00～16：00 受付 12：15～12：45 記念館にて
決勝戦：令和6年2月11日（日・祝日） 受付 10：15まで 10：30 開始 安井息軒旧宅にて
- 種目 ①児童同士（小学1～3年） ②児童同士（小学4～6年）
③児童（1～6年）と保護者：中学生以上
 - 申し込み：電話、FAX、メールにて
 - 申し込み締め切り：令和5年12月22日（金） 参加無料、賞状・賞品あり 🍀

🌸 2月11日（日・祝）は恒例の安井息軒梅まつり ～ボランティア募集～ 🌸



梅の花咲く庭園で当日はステージ発表や呈茶（無料）、クイズラリー、かるた大会決勝、かるた体験、四半的体験…等さまざまなアトラクションを予定しています。あなたのお力をお貸しください。ご連絡をお待ちしています。

NPO 法人安井息軒顕彰会は、宮崎市安井息軒記念館の指定管理者として、記念館と一体となり、宮崎市教育委員会文化財課や生涯学習課と連携を図りながら、安井息軒に関する研究や顕彰活動を推進しています。お問い合わせは記念館までお願いします。